授業科目	国際公法	単位数	２	配当年次	３年－２・３ ２年－１・２
担当者	山本 慎一	開講学期	後期	曜日・校時	月Ⅱ

１．講義等の内容

国際法は、主権国家間の関係を規律するとともに、今日では国際社会の共通利益・価値を守るための規則を設定する役割も大きくなっている。このような国際法は、主権国家が併存する国際社会において、国内法とは異なる特徴を備えて生成・発展し、解釈・適用・執行の仕組みが存在する。

本講義では、国際法特有の構造や特徴について、基本的な概念や諸原則、国際法にまつわる諸制度を取り上げて解説していくことで、法曹にとって必要最低限の国際法知識を教授する。なお本講義は、別途開講科目が存在する国際経済法および国際人権法の範囲は対象から除き、国際法の主要分野の学習の基礎となる法的知識の修得を念頭に置いて講義を進めていく。

また本講義の後半は、（１）国際法の適用が議論された日本の国内裁判例、（２）日本が関係した国際裁判例、のいずれかの課題でレポートを提出してもらい、当該レポートを素材にした質疑応答を採り入れて、調査・執筆能力の涵養を図るとともに、国際法の実際の運用に関わる理解度を測る。

２．授業の目標

将来法曹関係者として、たとえ国内法の専門家であったとしても、最低限の国際法の知識や考え方を身に付けることが目標である。

３．授業計画

第１回　法曹と国際法
授業全体の概要、法科大学院で国際法を学ぶ意義、国際法の概要などを理解する。

第２回　国際法の歴史的発展と現代的課題
伝統的（近代）国際法と現代国際法の特徴を知り、現代的な課題を学ぶ。

第３回　国際法の主体、国家管轄権
国家をはじめとする国際法の主体について学び、国家管轄権の仕組みを理解する。

第４回　主権免除、外交・領事関係法
主権免除の仕組みを理解し、外交・領事機関の法的地位について学ぶ。

第５回　条約法、国際法と国内法の関係
条約の成立・解釈・適用・効力に関わる仕組みを学び、国内法との関係を理解する。

第６回　国家領域
領域主権の性質、領域取得の権原、領有権問題などを学ぶ。

第７回　国際海洋法①
海洋に関する諸制度の概要を学ぶ。

第８回　国際海洋法②、国際航空法・国際宇宙法
海洋法分野および空域・宇宙空間に関わる法制度を学ぶ。

第９回　国際環境法
越境汚染への対処や地球環境の保護等、国際環境法分野の特徴を学ぶ。

第 10 回　国際刑事法
テロ対策、犯罪人引渡し、国際刑事裁判所等、国際刑事法分野の特徴を学ぶ。

第 11 回　国家責任法
国際法違反に対する国家の責任と対応の仕組みを学ぶ。

第 12 回　国際紛争処理法
国際紛争を平和的に処理する仕組み（非裁判手続・裁判手続）を学ぶ。

第 13 回　国際安全保障法
武力行使の規制の仕組み、自衛権、国連の集団安全保障体制、平和維持活動などを学ぶ。

第 14 回　武力紛争法（国際人道法）
　　武力紛争時における諸規則（害敵手段の規制・戦争犠牲者の保護等）について学ぶ。
第 15 回　レポートを素材にした質疑応答と講評

４．授業の方法・受講上の注意

配布したレジュメに沿って、講義形式で進めていく。受講者数や内容によっては双方向型の形式を採り入れる場合もある。レポート課題とそれに関する進め方については、１．を参照のこと。初回の授業時にもレポート課題の詳細は指示する。

国際法をすでに学んだ者にとっては知識の再整理という意味合いがあり、未習者であったとしても授業目標の趣旨に鑑みて受講を歓迎する。

講義は、受講者が学習を進めていく上での指針を与えるものである。本講義では、国際法の広範な分野から、法曹人であっても基本的知識として修得すべき内容を抽出して扱うため、受験の選択科目として考えている者は、参考書等を用いて積極的な自学自習を進めることが重要である。

５．教科書・参考書等

特定の教科書は指定しないので、下記の教科書・参考書をはじめ、各自が使い易いと感じたテキストで自学自習を進めること。初回の授業時にあらためて詳細な参考書等を紹介する。

［入門書］
・杉原高嶺『基本国際法』（有斐閣、2011 年）
・渡部茂巳・喜多義人編『Next 教科書シリーズ 国際法』（弘文堂、2011 年）
・中谷和弘ほか『国際法 第 2 版』（有斐閣アルマ、2011 年）
・横田洋三編『国際社会と法―国際法・国際人権法・国際経済法』（有斐閣、2010 年）
・植木俊哉編『ブリッジブック国際法 第 2 版』（信山社、2009 年）
・松井芳郎ほか『国際法 第 5 版』（有斐閣 S シリーズ、2007 年）

［教科書・体系書］
・浅田正彦編『国際法 第 2 版』（東信堂、2013 年）
・柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義 第 2 版』（信山社、2013 年）
・杉原高嶺『国際法学講義 第 2 版』（有斐閣、2013 年）
・杉原高嶺ほか著『現代国際法講義 第 5 版』（有斐閣、2012 年）
・酒井啓亘・寺谷広司・西村弓・濱本正太郎『国際法』（有斐閣、2011 年）
・小松一郎『実践国際法』（信山社、2011 年）
・小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 第 2 版』（有斐閣、2010 年）

［条約集］いずれの出版社でも可。担当者は『ベーシック条約集』（東信堂）を使用。

［判例集］
・松井芳郎編集代表『判例国際法 第 2 版』（東信堂、2006 年）
・別冊ジュリスト『国際法判例百選』（有斐閣、2001 年）
・別冊ジュリスト『国際法判例百選 第 2 版』（有斐閣、2011 年）
・杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例 50』（三省堂、2010 年）

６．成績評価基準

期末試験 50%、レポートとそれに対する質疑応答 50%によって評価する。

ｵﾌｨｽｱﾜｰ
講義終了後または事前にメールで日時を調整することにより、随時受け付ける。